

自然科学のとびら

Newsletter of the Kanagawa Prefectural Museum of Natural History

Vol. 3, No. 3 神奈川県立 生命の星・地球博物館 Aug., 1997



ホプロフォネウス (左) とディニクティス (右)

Hoplophoneus sp. and *Dinictis* sp.

樽 創 (学芸員)

北アメリカ大陸には、特に大きな犬歯(糸切り歯)を持つネコ科の動物が生息していました。代表的なものとしてスミロドン(サーベルタイガー)が有名です。

ホプロフォネウスとディニクティスは、新生代第三紀漸新世(3800万年～2400万年前)に生息していました。しかし、いずれも漸新世から中新世にかけて絶滅してしまいました。この2種類のネコは、どちらも大きな犬歯を持ち、体長も1メートル前後で、一見似ていますが、歯の本数によって簡単に

区別できます。下顎の歯を見ると、ホプロフォネウスは片側に3本の臼歯を持ちますが、ディニクティスでは5本です。では、彼らはその長い犬歯をどのように使ったのでしょうか。彼らの頭骨の形から、下顎を大きく開くことができたことがわかりました。また、犬歯の断面は平たく、皮膚や肉を突き刺すことに適していて、骨を砕くことには適していません。このようなことから、獲物の喉に口を大きく開いてかみつき、喉を切り裂いてしとめたと考えられています。